友愛

発行所
友愛青年同志会
東京都文京区音羽町7の10 電話大塚（94）2801
編集兼発行人　渡辺昇
定価　1部10円

年頭のことば

福祉国家への提言

鳩山薫

友愛青年同志会会長

全国の会員の皆さんに心から新年の御挨拶をお送りいたします。

昨年早春、前会長鳩山一郎急逝の後をうけて会長を引きうけさせていただいてから、早いもので、もう一年がすぎようとしております。その一九五九年という一年が、まれにみる充実した年でありましたのは、ひとえに川崎副会長はじめ全国の会員の皆さんが、前会長の創業の遺志を継いで、非常な熱意と努力を傾注られた結果であることを思い、心から嬉しく感謝いたしております。幸い、山荘建設運動も二ヵ所に完成をみ、組織も着実にのびて参りましたし、国際活動もまた「日本青年団体国際委員会」の設立を始め、海外派遣、日独交流を中心として充実した成果をあげていると存じます。これらは誠に御同慶にたえないところでありますと共に、わが国の将来にとっても心強いかぎりであると存じます。

今日、世界の動向は二力の対立から話し合いの方向へ、二大勢力の武装平和の対立の急迫な雰囲気の微候を示しております。このことは、私共が機会毎に希望していた「友愛精神に基く外交」が、「武力を背景とした外交」にその所をおきかえる歴史的段階にさしかかっていることを示しているものだと存じます。本年は、全世界の注目が、この一点に集中する年でありましょう。

青年は「次代」を背負うものであると同時に、「時代」を創造するものであることは、歴史が語る事実でありますが、思想と信念はまたその原動力であります。深い洞察力と普遍性を持った「思想」と、実行力に裏づけられた固い「信念」は、「時代」を創造する"生みの母"といえましょう。会員の皆さんが、国際社会の行くべき方向をよくみて、常に誤りなき世論の先頭に立たれるよう、友愛の実践に強い期待を持つのであります。

更にこの機会に特に一言したいのは、婦人部及び婦人会員の方の一層の活躍であります。「すべての友愛主義、すべての人道主義は母性的感情がその核心である」といわれています。戦後、社会の各分野における婦人の進出は誠にめざましいものです。分野によっては革命とさえ言える改良をもたらしている所さえ生まれます。しかし文化の程度の低い地域は、必らず婦人の地位の低いところであるという事実は、一つの示唆であろうと思います。会員の皆さんの活躍が、各地域で果たされる役割というものは、想像以上に高く評価されるべきものであります。「婦人こそ一切の友愛の根源である」ともいわれるのは、地域社会の向上にとって、婦人の活動が不可欠なものであることを示した言葉であといえましょう。

一九六〇年は黄金の年であるといわれておりますが、年頭に当り以上のことを要望いたしますと共に、内外の諸活動を一層高めて、わが会にとっても黄金の年であらしめるよう努力することを、皆さんとともに誓い合いたいと存じます。

昨年来、世界は東西両陣営の冷戦から競争的共存の時代に移っていった。一九五〇年代はその結果があらわれる時代であり、今年は第一年目として注目すべき年である。軍事力によらない競争であれば、いきおいそれぞれの国が経済的水準を高めるとともに、より高い文化と自由を享受することに務めるであろう。即ち福祉国家建設が口先だけのものでなく、現実の問題として取り上げられるようになることである。わが国といえども世界的なこの風潮にさからうことはできないはずである。幸いわが国の憲法は健康にして文化的な生活を保障すると規定してある。しかしわれわれが、あらゆる機会に社会保障制度の確立を叫び、福祉国家の建設をなぜ主張しなければならぬのだろうか。

政治家は口をひらけば「福祉国家を築き上げることはわが国の民主政治に課せられた使命だ」という。まことにリッパであるその通りであればだれも文句をつけやしまいましてわれわれがいうことも無いのである。

その通りでなく一見全く反対のことがおこなわれているとしかみえないところに、今日の政治的悲劇がある。現実の政治行動として福祉国家への道を進むには、現在の政治家では荷が重もすぎるというのでは仕方がないせっかく国民年金・国民皆保険の制度が出来上ったのではないか、この辺で形ばかりの制度ができたと自慢することなく、この気運をより高い福祉国家建設という目標に近ずけるよう努力してもらいたい。われわれは、保守党だからできないなぞといわない。しかしこのまゝでは革新政党でなければできないという意見が多くなりそうである。社民新党はいち早く現実的な社会主義政策を発表したことによって状勢も大きく変ってきた。自民党も新しい政治課題として真剣にこの問題と取り組んでほしいものである。われわれは今年も大いに社会保障制度確立を中心に福祉国家建設への提言をおこない、真に黄金の年にしてゆきたいと考えている。

【鳩山会長】

全学連の生立

最近の学生運動は「全学連」の狂的な激しい動きに目をうばわれ、昨年私学連等が中心となっておこなった「私学総蹶起大会」で示めされた地味ではあるが良識ある方向を、やゝもすれば忘れがちである。ところで一口に「全学連」といっても、行動等によってその存在や性格は知っていても、結成の経過を知る人は少ない。

戦後の学生運動の萌芽として「全学連」（全日本学生自治会総連合）が結成されたことは、必然的なこととはいえ、その後の学生運動にとって大きくプラスしたであろうか。現状をみる限りにおいては決してプラスしているとは考えられない。結成当時から今日の姿を予測する幾多の要因があったのである。結成に至るまでの経路は勿論のこと、スローガンや運動方針にみられる、あまりにも露骨なる政治的字句は、その後の方向を示すのに不足なかった。闘争とストの明け暮れによって、私学連（全国私学学生自治会連盟）との統一の夢は破れ、一般学生からもソッポを向かれるような組織へと移っていった。しかし全国的な連合体組織の強みは執行部の健在な限り相当な力があるということを忘れてはならない。最大のスポンサー日共からもみはなされ、全くの孤児になった現在なお出問の耳を寄うだけの動きをみせていることでもわかるだろう。

出発は学園の民主化

戦後占領軍当局がわが国の「民主化工作」に大ナタを振ったことは記憶に新らしなことであると思うそれに呼応して「学園の民主化」が叫ばれ、反動的教授の追放と進歩的教授の大学復帰、学園の民主功を奏したた。これらの運動は全国的に学生自治会の組織を強め、統一組織への布石となった。昭和二十年の京都学生連盟の結成を皮切に、中京学生連盟、九州学生連盟と続き、翌二十一年七月には、早大自治会が中心となって、「全国大学高専学生連合会関東支部」を結成、関東地方の約四十校を結集することができた。

闘争と組織統一

それより先昭和二十一年二月一日のいわゆる「ゼネスト計画の前日」関東学生連合会が東京で開かれ、官私学平等の学園復興と学園の民主化を決議するとともに、学生自治会の全国的統一を呼びかけることを決議した。ここにおいて組織統一の動きは本格的になり、前述の各組織の強化と相いまって、二十二年十一月には「全国国立大学々生自治会連盟」が結成され、まず国立大学の全国的組織がうまれたが、組織の統一が拡大されるにしたがい、運動も活発化し、二十三年の官公立学校授業料値上げを契機に値上げ反対闘争を展開した。この闘争でうきたえ上げられた自治会は今度は教育復興闘争に全力を集中することになり、同年六月国学連と関東支部という最大の学生組織が共催して「教育復興学生総蹶起大会」を開いた。大会は「教育復興宣言」を採択、文教予算の増額、学問の自由、教職員の待遇改善、六・三制の完全実施などの行動綱領を決定。学生運動史上空前の一月にいたり「全日本学生自治会総連合」（全学連）は結成された。これに結集された大学は全国の国公私立二四五校、学生約三十万と いわれる学生運動の本山としての体制を整えた。

その後の運動

批判勢力である私学連の分離は、これに結集された大学は全国の国公私立二四五校、学生約三十万と いわれる学生運動の本山としての体制を整えた。

全学連の結成へ

このような動きとは別に関西の私立大学や、日大・拓大等が中心となり「私学連」（全国私学々生自治会連盟）の結成準備が進められていた。官学偏重の国学連に反発する空気は全国の私学に初めからなかったわけでなく、それが政治的色彩を明確にして、闘争につゞく闘争をくり返す運動を展開する組織に入ることに、疑問を持つてきた学生がすでに多くなったとみるべきである。六月二十三日から全国的規模で突風された「教育復興ストライキ」は、全国の国公私立一四校、約二〇万の学生が参加したといわれ、全学連結成の一地はそのの時に固まったといってよいであろう。

応募規定

故鳩山一郎先生

顕彰論文募集

戦後の混沌とした社会に「友愛」の火を点じ、私達青年に希望をあたえ導いた鳩山一郎先生逝いてはや一年になろうとしている。私達は故人に報ゆるに友愛運動の推進あるのみと心に誓いたゆまぬ努力を傾けているのであるが、こゝに故鳩山一郎先生の顕彰事業の一環として、会員を中心に一般青年より論文を募集することにした。

論題　・友愛と日本の将来
　　・新しい町づくり、村づくり
　　・これからの青年運動は如何にあるべきか
締切　昭和三十五年二月末日
　　（当日消印あるもの有効）
字数　四百字づめ原稿用紙二十枚以内
資格　会員及び一般青年男女
発表　昭和三十五年三月七日（友愛三月号紙上）
送り先　東京都文京区音羽町七の一〇
　　友愛青年同志会事務局
賞及び賞状　賞金　一等五千円（一名）賞状
　　二等三千円（一名）賞状
　　三等千　円（三名）賞状
佳作若干名に記念品を贈呈する。

（審査員）
鳩山　薫、川崎秀二、鹿島守之助、木村毅、船田文子、深津栄一、奥田吉郎

主催　友愛青年同志会
財団法人　日本友愛青年協会

厚い信用・堅実な経営
第一證券
本店　東京・日本橋・三越前

謹賀新年　昭和35年元旦

財団法人日本友愛青年協会
理事長　鳩山　薫
常務理事　川崎　秀二
同　渡辺　昇
理事　天野　彦三
同　石橋幹一郎
同　奥田　吉郎
同　川手正一郎
同　高崎達之助
同　永野　重雄
同　鶴巻　克雄
同　萩原吉太郎
同　鳩山威一郎
同　深津　栄一
同　宮川　三郎
同　柳沢　定勝
同　監事　成毛　収一
同　監事　古沢　潤一
事務局長　北川　登

友愛青年同志会
会長　鳩山　薫
副会長　川崎　秀二
幹事長　奥田　吉郎
常任幹事　五十嵐省吾
同　稲尾　守正
同　大西　敏治
同　北川　登
同　鶴巻　克雄
同　早川　忠光
同　満生雄美子
同　宮本　康一
同　常任参与　柳沢　定勝
事務局長　深津　栄一
事務局員一　渡辺　昇
事務局員一　同

直言

▽一九六〇年／新時代息吹がきこえるような年である。第二次世界大戦後の混沌とした状態からようやく抜け出したのだと、今年は深く感ずる年はないだろう。単に年代が変ったというだけでなく、五〇年代に世界を覆っていた期待と不安が織り交じった、重くるしい空気が除々にうすらいできていることを感じとっているからではないだろうか。

▽それに何んとなく区切りの良い年の始めともなれば、人情として「新時代」来るといいたくなる人間普界をすると、多少は賢くなるものである。この辺で今までの歩みを振換させようと、新時代突入を強く打ち出し「黄金の一九六〇年代」と銘うったことなどそのあわれともいえる。

▽われわれは、こゝでやかましくわずに、ありがたく新時代の波を かぶろうではないか。たとえ作り出された新時代でも、黄金の年とは縁気の良い話しである。新時代の波をかぶったからには、それにふさわしい考え方や行動をとらなければならないことは勿論のことで、進んで自分自身時代を作るぐらいの意気はあって良いと思う。われわれは若いのである。

▽こゝで「青年よ大志を抱け」などというと時代がかってわらわれるかもしれないが、青年に夢のないことは何んとも悲しいことである。夢あるが故に現状に対する反骨は激しいものがあってしかるべきと思うが、多くの青年にその気概があるとはみうけられない。全学連の一部にみられる情熱もうまわりに終ってしまうのが当然である。

▽とはいうものの、いたずらに大言壮語し、反骨精神を振り回したところで夢がかなえられないことを、青年といえども充分承知している。それだから平凡に尊ずこと に重心するというにはまだ早やすぎはしないか、現実が理想像よりあまりにもかけ離れている状態では、夢の持ちようがないとなげくことから一歩進んで、新時代の青年らしく、新しい意味での夢を持とう。古い観念からする自分一人の立身出世主義でない夢もあることを銘記しながら。

説論

新らしい政治理念"福祉国家"

―今年こそ社会保障制度充実の年に―

（一）

"岩戸景気"にわいた昨年の幕に引続き"景気の一九六〇年時代"と今年もかなた期景気が良いようである。また一九六〇年という新しい時代の始まりも、何かしら新しい時代の始まりを想わせる年でもある。

昨年のフルシチョフ連盟相訪米を機に冷戦解消、平和共存の風潮は一段と高まってきたことは見逃せず、アイゼンハワー米大統領の訪ソが決まっている今年であれば、平和への期待が昨年以上に大きいことは勿論である。

このような国際政局を反映して、従来ならば軍事的に受け取る人工衛星、月のマクラ言葉にまでなっている。

わが国の状態も政治の貧困をさらに浴び、革新を図わず第一の公約として国民に訴え、歴代の政府の施政方針の中で重要な地位を占めている。

このようにすべての人々が口にし、異議なしの異議の出ない政策が、われわれの胸っているようにならないかを考えてみる必要がある。まず第一にわが国のように人口過剰国では、不完全就業者や潜在失業者の幅が広く、現在の産業構造では、これを吸収することは不可能に近く、福祉国家の基礎ともいうべき"完全雇用"の問題でゆきづまってしまうのである。加えて産業構造の二重化は、中小企業と大企業の間に大きな差をもたらし、農村と都市の間にも格差があるので、この解決も大変なことである。

困難な現状であればあるほど、社会保障制度の確立が急がれることはわかるとしても、働きたい人が働けて、所得にあまり開きがないようにしてから次に働けなくても働く能力を失なった人々に対する所得保障、働く人々の健康を守るための医療保障を完全におこなうのが理想ではなかろうか。

理想はさうあろうと、わが国の現状は、まがりなりにも出来上った国民年金と国民健康保険の両制度を充実させてゆかなければならないだろう。五割ないし三割の自己負担を支はければならない保険に低所得階級にはばかにならない保険料をはらわされ、小遣いもならない月ばかりの年金を受けるのでは社会保障制度がありますなどといはれたものではない。

その反面官公庁の職員や大企業の勤労者は高い賃金（中小企業にくらべ）をもらい且つ最も手厚い健康保険や年金の保護をうけているのである。だれがみても保護を必要とする人々には薄いのが現実で、これでは焼石に水といわれてもしかたがない。

せっかく国民年金、国民健康保険という社会保障制度の二本の柱が打ちたてられたのである。年金にしても健保にしても不平等をなくす絶好の機会でもある。保険の格差をちゞめることは勿論、各制度間の統合調整に努めるとともに行政機構の一元化に真剣に取組まなければ、依然として演説のマクラ言葉にしか通用しないであろう。

これからの科学

寺田一彦

これからの人類の発展にとって科学のしめる役割というものが極めて重大な要素になっているということは、近年特に誰でも認めたことである。

すでに昨年にはソ連の二大国家が宇宙開発の競争にあたっては、なはなしいショーを展開してそれぞれの底力についてのデモンストレーションを行ったわけであるが、こういう面で科学技術の進展如何が国家の盛衰に直接ひびいてくるということが誰にでもわかって来たことである。たしかに宇宙開発の科学は国の戦力にかなり密接につながるのであるが、これらを語うもとはやはりその基礎となる科学の進展によらなければならない。

そしてこういう基礎科学はそれ自体特別の目的をもって進んで来たものでない場合が多い。即ち科学にたいする科学として感じ、又科学につかれ、科学に愛着を感じた科学者がしづつ礎きあげたものが、後になって世の中に出てくる場合が多い。我々の諸先輩も原子物理学の分野で理論や実験から原子核分裂の問題を取扱っていたが、これが原子爆弾にまで発展しようとは思られた人々を除いては想像もしなかったし、又考えようともしなかったものである。

科学の基礎はその活用分野と全くとういっていい位に無関係につちかわれていく。これをこう技術面にいかすかは又別の問題である。しかしこの両方がうまく歩みよらなければ、科学もそのまゝで終ってしまう。それで近頃は科学の活用という点が原発に大仕掛になりつゝある。原子力の利用にしても小さい規模では原子力エネルギーはとり出せない。宇宙開発にしても莫大な燃料が消費しなければ地球の重力圏外にとび出せない。又これから大いに活用されるものに気候のかわる人工調節、人工変換の問題がある。ソ連がオビ、エニセイの上流に日本の面積に匹敵するような大きなダムを計画して、これによってカスピ海方面の灌漑用水を得ようという計画とか、砂漠地帯の緑地化、凍土地帯の温暖化の計画等は極めて大規模な構想の下に出発しているから、金属資源をとろうとしても小さいプラントでは経済的にひきあわない。米国のデュポン社は大量の海水を工場の中に通してマグネシュームをとり出す大プラントを実施した。こういったようにこれからの科学は大かりの資源の問題、資源開発、国土利用の線に活用される分野が多くなって行く。

これは結局世界の人口が年毎に増大して行き、これをどうまかなうか問題となってくるからである。中世紀時代には北欧の白色人種が当時の科学知識を活用して未開の地を征服し、その余りを今尚、経済的にも知能的にも優位をはこっている。しかし特に近年のアジア、アフリカ等の黄色人種の進出が白色人種に驚威を与えている。そして近い将来に、中世紀時代に白人が征服した領土はもとに返されることになると同刻に、世界全体から見た地の効果的利用と資源の活用との真から世界人口の増大に対処する点が解決されなければならない問題になる。

この点から見た科学の中では、例えば食糧に関連して新しいものが登場してくる。これが効果的に作られれば領地問題はある程度解決がつく。又人工的に生命が作られる。これには先づ海水を母体として種々な生物が作られるだろう。又こういう下等生物の増殖のメカニズムが明らかになり、人工的にこれを沢山作れる。これが他の動植物の栄養にとりいれられこれ等の成長も早められる。

他方我々人類もまた科学の発展に伴い精気は少くなり寿命がのびる。人工的の若返り、老化した内臓器官のおきかえが可能となる。そして未開発地域の人々はこれ等の恩典を著しくうけて、人類平均レベルは高まっている。

近年の科学の進歩は誠めて著しく、而も迅速である。まもなく宇宙旅行が可能となり、世界の各地で人工的に大工事がすみ、我々も健康と長寿とをたのしむことが出来る。しかしこういう科学の急速な進歩においつかないものがある。それは我々人間の知性である。科学の進歩に伴って人知も進歩すれば世界の平和は保たれるであろうが、科学に優位をとった国民は人知にも優位をとったとの錯覚におちいりがちで、他をおさえようとする幼稚な考えの下に行動し初めれば、全人類はそのままそえを賞って滅亡の方向に向はざるを得ない。というのはその際には原子兵器が多量に登場するからである。

我々人類は科学のために栄えて来たが、科学の進歩のために却って滅びる可能性と直面しかかっている。これを救うものは人類相互の協力のみである。『万人は自己の幸福を望んでいる。しかし技術的に一つとなった今日の世界では自らの幸福を望んでも、他人の幸福を望む心と一つにならない限りそれは何の役にも立たない』というバートランド・ラッセルの言葉によく耳を傾けるべきである。

これは又古えの聖賢の教えでもある。これがこれからの科学の活用の場合にも通用するのである。

（筆者は気象庁上席気象予報官）

新春雑詠

内山一草堂

くれなゐを潮にとかして初日いま
破魔矢背に雷族の走り過ぐ
能始め翁そのまゝの六平太

新婚の人に

酌をしてくれる人あり今朝の春
雪国の雪の白さよ旅はじめ

母国日本

リーチルド・エス・クーデンホフ・カレルギー（Richard N. Coudenhove Kalergi）は、明治二十七年十一月十七日東京で生れた。父親はオストリヤ東京公使館の代理公使でであったハインリッヒ・クーデンホフ・カレルギー伯爵であり、母親は麻布、一の橋の近くにあった骨董兼油屋西の青山家の長女芳子であった。このオーストリアの外交官と日本婦人とが結ばれたについては、カレルギー自身の自叙伝の中にも、また鳴山一郎先生が訳された「自由と人生」の付録「木村毅氏解説」の中にも、簡単に述べられている。それは簡単に述べられている。それは私共の興味をそそる東洋的な、そしてかなりロマンチックなかおりをたたよわせた物語である。三千三才のハインリッヒと、十九才の光子がいつ結婚したかは明らかでないしかしこの日清戦争前の一つの国際結婚を、当時の日本の社会事情を背景に考えてみると、そこに多くの困難があったことは想像に難くない。中世的な封建国から近代国家に変化したための日本と、その当時までヨーロッパの外交官にはほとんど一人として日本婦人と結婚したものがなかったというむしろ当然すぎる事実を底に入れれば、その困難は青山家の側にも、そしてより多く、カレルギー家の側にもあったはずである。カレルギーの自叙伝はこのときの彼の父親と母親との結婚についてこう書いている。

「彼の答えはただ一つしかなかった。彼はこののちたとえ外交官を辞めても生きて行くことはできようう。しかし光子なしでは生きて行けないことを彼はよく知っていた。彼は強しい抵抗力で、自分の計画をはねもうとするあらゆる妨害に打ち向った。ついにオーストリヤ皇帝も、日本の天皇も、教会も承諾をあたえた。光子は東京の寺院で、大司教によって盛大に洗礼式をうけた。日本の慣例（明治維新前）は、彼女の親の帰国とともに日本を去るまでの二年半近くを、東京のオーストリヤ公使館ですごした。

そして、この二年半を除いて、六十六才の現在まで、彼の行動は、この「エイジロウ・クーデンホフ・カレルギー」に対して、それだけでかぎりない親しみを感じられるのである。

とにかく、「エイジロウ」は、明治二十七年に生れて、明治二十九年に、彼の父親の帰国とともに日本を去るまでの二年半近くを、日本の慣例（明治維新前）は、彼女の親の帰国とともに日本を去るまでの二年半近くを、東京のオーストリヤ公使館ですごした。

そして、この二年半を除いて、六十六才の現在まで、彼の行動は、やめても生きて行くことはできようう。しかし光子なしでは生きて行けないことを彼はよく知っていた。彼は強しい抵抗力で、自分の計画をはねもうとするあらゆる妨害に打ち向った。ついにオーストリヤ皇帝も、日本の天皇も、教会も承諾をあたえた。光子は東京の寺院で、大司教によって盛大に洗礼式をうけた。日本の慣例（明治維新前）は、彼女の親の帰国とともに日本を去るまでの二年半近くを、東京のオーストリヤ公使館ですごした。

そして、この二年半を除いて、六十六才の現在まで、彼の行動は

カレルギーと友愛

友愛の始祖ともいうべき、クーデンホフ・カレルギー伯については本紙上において、しばしばふれているとともに、先に出版された自叙伝等によって、カレルギー伯の人となりを知っている会員も多いと思うが、先般の第十回幹事会でカレルギー伯日本招待が正式に取り上げられたのを機会にあらためてこゝに友愛とカレルギーの標榜のもとに、カレルギー伯を中心とした友愛思想発展の経過をたどってみることにした。なおこの稿の執筆は母国日本カレルギー伯爵に会い友愛思想の心髄にふれてきている深津栄一氏（常任参与）にお願いしている。（写真は生後まもない頃の力伯）

最近の力伯

NHK「青年の主張」に今君

北海道代表に今君

NHK主催の「青年の主張」には、今君は今回が初出場で「現代における青年の責任」をテーマに去る十二月十三日旭川市でおこなわれた北海道大会で時の代表に選ばれたものである。

NHKホールでおこなわれた「第六回青年の主張全国大会」に北海道ブロック代表として、今久男君（岩見沢支部）が出場した。

本年度の全国大会は例年通り全国を九ブロックにわけ、「社会からこんなことをなくしたい」「古い考え、新しい考えと」「楽しい農村をきづくために」「現代における青年の責任」の四つのテーマから、それぞれ選び昨年暮に各ブロック大会を開き代表を決めたものである。

今君は、この「エイジロウ・クーデンホフ・カレルギー」に対して、その思想と共に全世界をかけめぐったが、再び日本を訪れたことはない。彼が彼の生地日本にはせるおもいは、最近私のところに来た手紙に次のように述べている。

「現在の私には、この世界で日本以外に行きたいと思う場所はない。」

ここに掲げられている写真は、昭和三十一年八月二十五日、私がスイスのベルンと彼を訪れた時とくにたのんで、もらって来たものである。私の強引な、そしてむしろあつかましいと思われる申出に対して、彼はその母の着物を着てうつしたった一枚の写真であったから。しかし結局彼は、ペンをとって写真の下に「強い思い出において私の友人に」と書いた後サインをして私に渡した。もし私が「日本人」でなかったら、彼は決して与えるようなことはしなかったであろう。そうだ、彼には半分日本人の「血」が入っている。この写真はわれわれ日本人と、彼との「血のつながり」を強く思いおこさせるものをもっている。そして彼の思想が――それはこれから回を追って書いて行くが――直観の源から顔をふまえて、論理を大きくまとめて行く東洋的なものをもっているといわれる点は、ここにその源があると考えていいのではなかろうか。

お知らせ

二月七日より連絡の局番が左記の通り変更いたします。なお番号は従来通りです。

旧（94）二八〇一番
新（94）二八〇一番

財団法人日本友愛青年協会
友愛青年同志会

エバーソフト

エバーソフトはブリヂストンが責任をもっておすすめする商品です。なかのゴムは勿論、カバーも特に吟味して良質のものを使用しておりますので安心して御使用して頂けます。最近　類似品があります。お買求めの節はブリヂストンのエバーソフトと御指定下さい。

―会員割引―

エバーソフト全製品を会員には割引で販売いたします。
送料（関東・甲信越は当方が負担。その他の地方の方は実費をいただきます）

お申込は
友愛青年同志会事務局へ

アメリカ見聞記（上）

◇…政府初のこゝろみである〝青年海外派遣〟は昨年十二月アメリカ班の帰国で終っ…◇
◇…たが、全国各地の青年がそれぞれ約三ヵ月にわたり海外を視察してきたことは、…◇

今後何んらかの形で成果が現…◇われてくることであろう。特…◇に今回は、各自が研究テーマ…◇を決め、それにもとずいて視…◇察・研究をおこなったので、…◇特徴のある報告記ができてく…◇ることが期待される。なお別…◇稿の通り本会の代表も無事帰…◇国した。そこで、報告書とは…◇別にとりあえず一般的なアメ…◇リカ見聞記を川手君に書いて…◇もらうことにした（編集局）…◇

一口にアメリカといっても、いろいろな見方や考え方がある。また、その考え方にも滞在した期間や場所によって多少の相違ははいてくるものと思う。だから、これから書く、小生のアメリカ見聞記も或いは間違っているところがあるかも知れない。しかし、そういう点があればあらかじめこゝで御諒承を得たい。

十四日間、大阪商船のブラジル丸で太平洋を横断、途中、三日間はかり低気圧に遭遇したがそうたいした事もなく言無事最初の目地であるロスアンゼルスに到着した。

立派な道路と自動車

船から上陸し、まず目を見張ったのは予想以上に立派な道路とそして無数にしかもフルスピードで走る自動車の群であった。何しろ港からロスアンゼルスの中心街迄行くバスがフリーウエイ（高速道路）に出ると時速六五哩（一〇四粁）もの速度で走るのだからたまらない。でも周囲を飛ばしている車が皆速いためか日本で経験するようなスピード感はない、メーターを見て驚く次第だ。

大陸横断鉄道車中の川手君

あんなに沢山の自動車を見るとアメリカの経済にとって自動車の売れ行きが景気を左右するということも納得出来る。

アメリカの各地で家庭に招待され泊ったこともあったが何処へ行っても自動車のない家はない。一寸金持の家庭では二、三台持っている家も多くあるようだ。

そんな事からアメリカの第一印象はなんて金持の国だろうと思った。また、それと同時に街頭に出て多くの人に接し、アメリカの国民大衆が徹底的にデモクラシーに徹しているということも、日本で我々が学んだ以上に立派であり、とくに個人と公共という問題などと個人が立派な判断力を身につけ善悪の基準を持ち合わせているという事実は、我々に大変好印象を与えた、こんな例は、教育が進んでいるといわれている日本人なら多いに学ばねばならぬ点であると痛感した。

喧やましい信用制度の発達

人間と人間の信頼度というのは実際日本にいて想像もつかぬ位頭く立派なものであった。

だから、それを基盤にしたアメリカ経済というものは、高度に信用制度が発達し、どんな旅行者でも銀行へ行く事なく小切手を使える。例えば、我々が小切手を持って どんな店に行っても一ドルの品物に二十ドルの小切手を切ったとしても一九ドルの釣り銭はくれる。日本ではそんな事をしたら不渡りの心配で大変なことだ。勿論、不渡りの心配がないのではないだろうが人を信頼するということがやはり基本になっているらしい。

こんな点は、我々日本人とくに商売をしている人にとっては羨やましいことだ、信用制度の発達ということもアメリカ経済にとって一つの特徴であろう。

国民は信頼している

アメリカ経済のことと関連して、もう少し感じたことを書くと、実質的には、どうか深い問題は解らないが外見的には、完全な消費経済であるように見える。又、インフレの感ぶもやゝあるといわれているが安定している経済であるように感ずる。

アメリカの国民はアメリカの政治や経済に絶対の信頼をもっているのだろう。だから国民は不安を持たず、いきおい消費的傾向が強くなり、貯蓄という観念は一般大衆からそう聞いたことはない。

病気になれば保険があり、年取れば年金があるというように個人に直接的な不安がないからだろう。信用制度の発達にともなって具体的には保険制度が発達し、国民大衆はそう経済的苦しみを感じていない、この点も日本とは大いに違う。

働く労働者

しかし、このような経済の中にあっても彼等の労働は、決められた一定時間内では非常にきつく、又実際良く働いている。

フォードの自動車工場を見学し、目の前で自動車が四〇秒おきに走り出す光景を眺め、アメリカの合理化された工場工程を知ると同時にその中で働いている労働者が、歩きながら自動車を作る忙しさを見て、アメリカ的な厳しさを感じた。

流れ作業に従事している労働者は機械の一部としか見ない。しかし、そうした反面、労働時間は厳しくとも一旦労働から解放されると、彼等自身の生活を満喫しているようだ。

仕事の時間と自分の時間というものは全く明確で、生活のために働くというよりもむしろ個人の生活を楽しむために働いているらしく そんなことから労組のいろいろなことは、労者の働きぶりにも日本のような深刻さはみられない。

労組の考え方

ピッツバーグで鉄鋼スト直後の労働組合の幹部と会っていろいろ意見を交換したが、我々が日本で考えていた労働組合とは全く違い、前もって用意していた質問も的はずれの体だった。

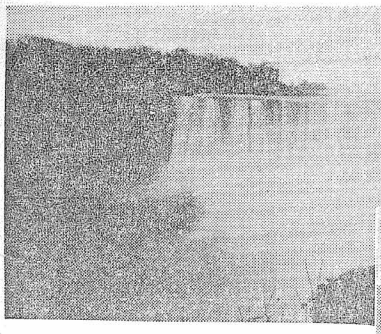
例えば、労組の経営参加というような問題も、こちらで話しても同うがこちらの意汲む返、担当の時間がかゝり、意味が解ってからも労組が何故経営に参加するのかと不思議に思っているようであった。

その後、労働権と経営権がはっきり分れているたるスト等の話に治いても意見が食い違った面が多く双方ともまごついたりした。

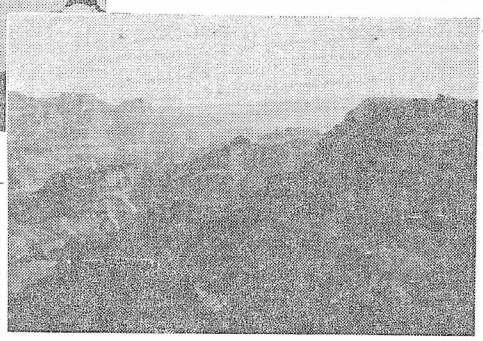
ビッツバーグでは、ニュースを現地の新聞で知り、一日本ではいつも問題にされているようだが労組の政治斗争はアメリカでは絶対禁止のようだ。日本でもそうなってはいるものゝ、実際的にはなかなか守られていない。

こんなところにもアメリカ人と日本人の国民性の違いというものを発見した。勿論、生活の相違ひいては政治や経済の問題があるのか知れないが一旦多数決によって決められたものは守るというアメリカ人の考え方も学んでいったように思う。多数決の横暴だと云えばそれ迄だが。

最後に、八五才になる一世の老人が、日本人がアメリカに来ていろいろ見聞し、帰国してからアメリカの悪口を去うと偉らそうに見えるといわれているが者達はアメリカの悪る云わずアメリカの良いところを伝えて欲しい、それがやがては日本を発展させる原動力になるだろうと語ってくれたことを記し、第一項の筆を起きたい。



ナイヤガラ



グランド・キャニオン

青年海外派遣団
川手 吾妻 両君帰国

青年海外派遣団員の本会代表川手正一郎（常任幹事）吾妻亮（婦人部代表部委員）の両君は、それぞれ所用の視察目的を達成し先般元気で帰国した。

まず十一月二十三日午後六時、東南アジア班の吾妻君が羽田空港に帰着。十二月七日には川手君がアメリカより帰った。

特に川手君は中央選出の幹部委員としてえらばれたので、同君の視察成果が期待される。

解説
現実的な政策案
―民社新党の発足―

▽西欧諸国における社会党の方向転換（階級政党から国民政党への転換を意味する）特に西独社民党の新綱領発表が、日本社会党に与えた影響は大きい。西尾氏が国民政党に脱皮すべきであるといって から久しい、それが党内意識によって党的自覚の高まりとみられてはいたが、この意見に同調する人々も多かった。

西独社民党の新綱領に直接影響されたとはいえないまでも、学者グループ、労組を中心とする民主社会主義の流れは、これによって急速に拡がり、日本社会党分裂の要因を作っていった。時も時会国大会で西尾氏処分問題が取り上げられ「西尾氏を綱制委員会に付託する」決定がなされた。かくて西尾派の脱党となり、引続き河上派内部からも脱党が相次ぎ、民主社会主義を標榜する新党の旗上げとなったのである。西欧諸国のように党をあげて方向転換を考えることなく分裂という結果に終ったのは日本の国情を反映しているともいえる。

▽民社新党の旗上げは、昨年十月二十五日西尾派による「社会クラブ」の結成で現実の問題となり、河上派と旧方組織の一部が脱党して「民社クラブ」を結成したことによって、再建同志会（社会クラブ）と民社新党全国準備会（民社クラブ）が一緒になった「民主社会主義新党結成準備会」を発足させることによって具体的になってきた。こゝで問題となる点は、国民政党の方向を打ち出した民社新党が、どのような政策をもって国民に訴えるかである。これまで国民が社会党に対し期待をしながら不安をもっていた理由は、社会民主主義をかゝげながら、共産党的な言動に走ゝがちな状態にあったからにほかならない。この点は日本社会党にみられるばかりでなく西欧諸国の社会主義政党にもみられることで、各国とも新しい構想を求めて模索していた。社会主義政党の発足当時を思えば、反抗的革命的にならざるをえなかったことにもよるが、今日世界のすう勢としてこうした態度は古くさいのではなかろうか。

▽民社新党の推進者は、新政策立案に際しどの点を十分考慮しているようで、先に発表された政策案に盛りだんでいる。また民社新党の理論的裏付けは、たしている民主社会主義連盟の研究会議も新しい社会主義の重点は何かを真剣に討議している。これらを綜合して感ずることは、今までの社会主義政党の殻を是正して、現実に即した新しい方法で社会主義国家を実現しようと努力しているようである。外交政策一つをみても、現在問題となっている安保改定の即時廃案を主張せず段階的解消に重点を置き、具体的な対案を出している。中国問題にしても二つの政府の存在を認めた上で国連で中共の代表権を認めようとしている。このような政策からもわかるように、外交政策の上ではげしい保守・革新の対立は国際にとって不利益であることを暗に示し、漸進主義的なゆき方をとったことは、反対党として正しい態度といえる。国内政策では、経済政策を中心に全国民の中産階級化を目標として産業国有化にこだわらない方向を示している。

▽民社新党に一貫して流れているものは、社会主義の建設を目指していることに変りないとしても、個人の尊重と自由の強調である。こゝでわれわれが密に感えている友愛運動との類似点がでてくるわけである。先般の民主社会主義研究会で東京都立大学の関嘉彦教授は「これまでの社会主義は、社会制度さえ改革すれば人間性もそれによって変わる、という唯物史観に対する楽天的な考え方の上に立っていた。したがって制度ばかり重視して人間そのものを無視してきた。新しい社会主義は忘れられていた人間の尊重をはっきりと打ち出さなければならない」と述べている。西欧民主主義から発した友愛思想が社会主義から発した民主社会主義と考え方のうえであまり違わない結果になった。われわれは民社新党の今後の動きを大いに注目しなければならないだろう。

（辺　人）

×友愛俳壇よりお記の×

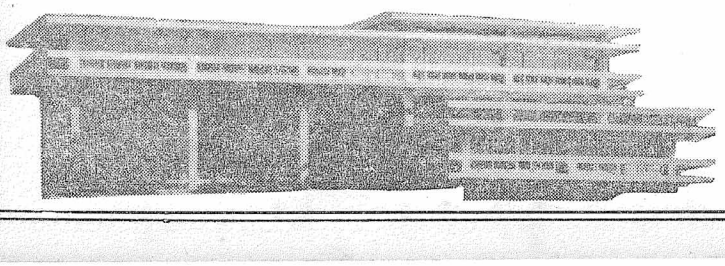
正月号にて秀作の発表をすることになっておりましたが都合により二月号に発表―賞を早進することになりました。

また御応募なさっていない方も御投句下さい。

雑詠　一人五句以内
締切　一月二十六日まで
送り先　官製ハガキにて友愛俳壇係

御贈答にはそごうの
商品券
1,000円～10,000円
大阪店・神戸店・東京店　各店共通
そごう

常春の瀬戸内海へ
友愛山荘
―尾道―
（年中開設）



料金　350円（一泊二食付）
収容人員　70名
申込先
・広島県尾道市千光寺公園内　尾道友愛山荘
TEL 尾道 5554
・東京都文京区音羽町7の10
日本友愛青年協会
TEL (94) 2801

1960年の新春にあたり本会は、試練の年であった昨年を乗り越えた力を引続き結集して、大きく飛躍しようとしている。鳩山会長を中心とした本部役員の結束はますます固く、地方支部、婦人部、学生部も拡充強化されている。至国の会員の皆さん本年も大いに頑張りましょう。

三十四年度厚生白書

長期の社会福祉政策を
今後の経済計画とにらみ合せ

厚生省は十二月九日、三十四年度の厚生白書（厚生行政年次報告書）を発表した。今度の白書は三十一年度に第一回白書が発表され以来四回目である。この白書の目新しい点は今までの厚生白書のように貧乏の実態を大人口問題の将来などと関深い社会福祉政策の障害を深く追求することを手控えたかわりに、国民の日常生活と直結する環境衛生施設の改善など現実的な問題、特に所得倍増計画など長期経済と合わせた社会福祉政策との関連をとりあげていることである。

長期経済計画と福祉政策

最近、政府はいわゆる「所得倍増計画」はじめ長期的経済計画の立案にかかっている。このため、社会保障に関する諸計画も国民経済の発展に応じて長期計画の立案が必要となってきた。ただ、経済計画は国民生活の向上を目標とするのに対し、社会保障の目的は労働能力のない老齢者、身体障害者、母子世帯をはじめ国民の最下層の生活を確保するところにある。このような観点から、長期経済計画に加えて長期の福祉計画を実施することが必要である。このような長期の福祉計画は国民の幸福を増進するとともに、長期福祉計画に投ぜられる投資によって経済発展の基礎ともなる。従って、社会福祉に対する投資は経済の発展を阻害するものではなく、経済発展と相互関係を持つものである。今後の厚生行政はこのような観点に立って長期計画を実現すべきである。また一九六〇年は、「黄金の六〇年」といわれ、わが国が世界景気の波に乗って一段と飛躍することが想されている。日本が世界景気に遅れないためには、全国民の健康と文化生活の向上が必要だが、それには社会、医療保障制度の充実、各種社会設備の整備、社会、生活環境の浄化など「人間投資」が必要である。

消費生活　最近、経済の発展とともに個人消費も全般的に堅実となり、三十三年度の個人消費水準は全国平均で五%伸び、二千九年度以降の最高となった。その半面一般世帯と生活保護世帯（五十八万世帯）との消費水準の差は毎年開きが大きくなり、また大企業と中小企業との格差、農工格差、地域格差なども開きつつある。これらの格差を縮小するため、経済計画と福祉計画の関連が必要であり一方では社会保障対策をさらに充実させなければならない。また消費生活の向上とならんで、上下水道、清掃施設など公共サービスの整備が必要だが、特にこれらの環境衛生施設は、個人消費支出の向上や道路拡張など産業基盤となる公共施設の整備に比べてはるかに立ち遅れており、整備充実急ぐ必要がある。

特に人口の増加と都市集中に関連して都市におけるし尿処理対策が切実な問題である。し尿処理の根本的な解決は下水道による使所の水洗化だが、急場の間に合わないので、とりあえず別年度から下水道によらないし尿処理施設を全国の都市に整備していく。

成人病が急増

国民の健康　国民の健康の状態をみると、三十三年度の平均寿命は男が六十四・九才、女は六十九・六才と今日までにない記録を達成した。また死亡率も三十三年には人口千人に対し七・四人とこれまでの最低値を示した。さらに、罹病状況からみても、一件あたりの傷病日数は、三十三年には十二・三日で十年前に比べて半減している。

しかし欧米諸国に比べると乳幼児の死亡率や伝染病による死亡率が高い。また近年は結核とならんでガン、脳卒中、心臓病など、いわゆる成人病や精神病など疾病対策も大きな地位を占めてくるのが予想される。

食生活　国民の食生活も順調に「量から質」への転換を行いつつあるが、まだ消費単位の七一%は穀類から摂取するなど穀類偏重の傾向が強い。各栄養素の摂取量は栄養基準を満たすに十分でなく、ビタミンの不足が著しい。

児童、青少年問題　近年、十五才未満の児童の交通事故による事故死が激増、死因の第一順位を占めた。十五才から二十四才までの年齢層では、自殺が死因順位のトップとなり、世界的にも最高位を占めた。

国民年金の創設

年金制度　国家の責任で老齢者、身体障害者、母子世帯などの生活金保障することは、最近、国民の強い要望となった。このような事情を背景に、さる四月国民年金制度の創設を内容とする国民年金法が成立した。この制度はさしあたり厚生年金保険、恩給などの年金制度加入者を除外し原則には拠出制を、経過的措置としては無拠出制の福祉年金を併用するものであり、福祉年金の支給は今年十一月分から実施された。拠出制年金の保険料徴収は三十六年四月から始まるが、制度の円滑な運用のためには、制度の周知徹底、事務処理機構の充実強化、他の年金制度との調整、積立金の運用方法の改善と解決されねばならぬ問題が多い。

厚生年金保険、船員保険、各種共済組合などの制度があり、その適用人員は千四百四十三万人（三月三十一日状在）であり、わが国の被用者人口の六九・二%を占めている。とくに厚生年金保険の積立金は大蔵省に預託され、一部が被保険者のための福祉施設の建設資金に還元融資されているが、融資額は年間の積立金の増加分のわずか十数パーセントで、中小企業の被保険者はほとんどその恩恵を受けていないので、運用方法の改善と環元融資ワクの拡大が望まれている。

国民皆保険体制　三十二年に国民皆保険計画がたてられて以来、国民皆保険達成のためいろいろな施策が行なわれたが、とくに三十三年度および三十四年度には、新国民健康保険法の施行、各種の医療保険制度に対する国家負担の医療保険制度などの強力な施策がとられ、国民皆保険計画は著しく進んだ。この結果、三十三年度末の医療保険の適用人員は七千三百八十七万人に達し、総人口の八〇%を占めた。

国民皆保険へ

国民健康保険　三十三年度および三十四年度の国民健康保険の普及は非常に順調であった。三十三年度末の被保険者数は前年度に比べ三百六十八万人加、その実施市町村は全国市町村の八三%に及んだ。三十四年十月現在、全県普及を達成した県は十県となり、とくに都市において進展した。一方、保険給付の内容を次第に向上しているが、被用者保険の給付に比べればまだかなり低く、改善の余地がある。

被用者保険　日雇労働者健康保険を除きほぼ順調で、政府管掌健保、船員保険の赤字は減少した。日雇労働者健保は昨三年度に一応の財政措置を講じたにもかかわらず年度末には三億五千万円の赤字を出した。

医療制度との調整

医療保険の今後の問題点　医療保険の全国民への普及は一応達成される見通しができたが医療保険の確立のためには、引き続き第二次国民皆保険計画を樹立する必要がある。第二次計画の課題としては、給付内容の充実、とくに健康保険、被用者保険の被扶養者の給付率の引き上げ、医療保険財政の安定化と健全化のための施策、医療保険制度と医療制度との調整などが必要である。

低所得者対策

生活保護　生活保護の被保護実人員は、経済全般による好況と生活保護制度以外の各種諸施策が整備されつつあることにより減少を続け、三千三千年の全国平均では前年対比二一%減の百六十一万五千人となった。しかし、医療扶助による結核、精神病入院患者の増加傾向はいまだ衰えず、三十四年度にはこれに要する費用は当初計算を大きく上まわる見込みとなった。このためさる十月から開かれた第三十二臨時国会で三十七億円の補正予算を計上するに至った。

なお、生活保護に関しては、今年四月から即年対比三一%の保護基準引き上げが行なわれた。

低所得層対策　低所得層対策は基本的には経済政策によって行なわれるものであるが社会福祉行政としては現在まで世帯更生運動による世帯更生資金の貸し付けなどが実施されている。今後は広く低所得層が利用できるような授産施設の整備をはじめ、低所得層の生活相談のため「心配ごと相談所」の計画などがたてられている。

余暇の利用を重視

余暇の利用　労働時間の短縮、電気器の普及による家庭生活の合理化などの結果、余暇利用の問題が生活のなかで大きな比重を占めており、また実際労働や精神的緊張がたしかに増加している現在、余暇の有効な利用が必要である。余暇をスポーツや旅行などに利用して生活の質の向上をはかることは国民生活の質を向上させるばかりでなく、また国際労働や精神的緊張がたしかに増加している現在、余暇の有効な利用が必要である。余暇をスポーツや旅行などに利用して生活の質の向上をはかることは国民生活の質を向上させるばかりでなく、また国際労働や精神的緊張がたしかに増加している現在、余暇の有効な利用が必要である。

余暇の利用についてはこれまで無関心だったが、今後の厚生行政にとっては不可欠の問題であって、このため自然公園の整備、保護をはじめ国民宿舎の増設、保養温泉の育成など余暇利用の？を提供することが必要であり、またそれが時代の要請である。

歳末助け合い運動
募金ダンスパーティー

恒例の歳末助け合い運動募金ダンスパーティーは、去る12月15日午後6時から、東京・大手町の永楽ホールでおこなわれた。今回のパーティーは本会婦人部と東京文化女子学園の共催であったため、若い女性の参加者が多く、柔かな雰囲気をかもし出していた。なお当日の純益は本年度歳末助け合い運動の方針にもとずき伊勢湾台風被災者に贈った。

既報の通り渡辺事務局長と本多良子さんの結婚式は、十二月十一日格山荘（文京区南関口台町）において、友愛にふさわしい新形式で、簡素なうちにも盛大に挙行された。当日は渡辺・本多両家の方々、鳩山薫会長、川崎秀二副会長夫妻、鳩山威一郎氏夫妻をはじめ各方面から百五十名が参列、一成はますます、深津栄一氏夫妻（世話人代表）が司婚の言葉を述べ、新郎新婦の指輪交換、婚姻届に署名捺印を終えて両親より新夫妻に握手があり、渡辺昇君の誓いの言葉があって、鳩山薫会長の音頭で一同乾杯して頂金を祝福しすべて型破りの友愛方式で式を進め、ここで友愛合唱団がお祝いのうた（越天楽）を贈り、式を終った。引続き祝賀パーティーに移り、鳩山薫会長、川崎秀二副会長、百々己之助氏（日大教授）三田村武夫氏（衆院議員）中尾栄一氏（日本青年団体国際委員会事務局長）平岡希一氏（日本健青会副委員長）等来賓の祝辞や、奥田幹事長、満生婦人対策部長等本会関係者の祝辞が友愛合唱団のお祝の歌をはさんで渡辺・本多両君に贈られ、新生活のかどでを祝った。

入会申込は支部または本部までハガキで一報下さい

東京都文京区菅羽七ノ一〇
友愛青年同志会

第三回 新協美術展

期日　2月1日——8日
会場　上野公園・都美術館

絵画・彫刻・写真・工芸

友愛青年同志会員は入場無料です
受付でバッチを提示して下さい

楽しみの多い証券貯蓄

岡三の投資信託

只今募集中　1口 5,000円
あなたのマネー・コンサルタント

資料のお申込は
東京日本橋局区内
岡三証券業務部

岡三證券

本社大阪市東区今橋2の3
支店 東京・名古屋・京都他全国主要都市